

会 議 録

会議の名称	第6期第5回小金井市行財政改革市民会議		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成24年3月28日（水）午後3時30分～午後4時47分		
開催場所	市役所本庁舎3階 第一会議室		
出席者	委員	大橋忠彦会長、吉沢幸子委員、雨宮昭一委員、河村 清委員、 戸張雅子委員、中野利枝子委員、林 育男委員、横田真理子委員、 池田昌美委員	
	事務局	市長 稲葉孝彦、副市長 上原秀則、企画財政部長 天野建司、 企画政策課長補佐（行政経営担当） 秋元良夫、 企画政策係主任 中島良浩、企画政策係主事 大久保知佳	
欠席者	松井義侑委員		
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 ・ <input type="checkbox"/> 不可 ・ <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
会議次第	別紙1のとおり		
会議結果	別紙会議録のとおり		
提出資料	添付のとおり		

## 第 6 期第 5 回小金井市行財政改革市民会議次第

日時 平成24年 3 月 28 日（水）午後 3 時 30 分

場所 市役所本庁舎 3 階 第一会議室

1 開会

2 前回（平成23年 7 月 5 日（火）開催）の会議録の公開について

3 議題

（1）市民による行政評価（報告書）について

（2）その他

4 閉会

## 第5回小金井市行財政改革市民会議 会議録

平成24年3月28日（水）

### 開 会

#### 1 開 会

○会長            それでは、本日出席予定の皆様方、お集まりでございますので、ただいまから第6期第5回目の小金井市行財政改革市民会議を開催させていただきたいと思っております。

                  まず冒頭に、せっかく稲葉市長が出席しておられますので、市長から、一言よろしくお願いたします。

○市長            皆さん、こんにちは。今日は今任期最後の会議というふうに聞いております。ご出席いただきましてありがとうございます。

                  小金井市の行革がかなり進んできたというのも歴代の行財政改革市民会議の皆様のお力のおかげと思っております。にもかかわらず、今小金井市の財政状況は極めて厳しい状況に陥っております。一つは税収が非常に落ちているということでありまして。ご存じのとおり、小金井市は法人市民税よりも個人市民税の比重が大きいわけですが、やはり給与所得者の方々の所得が減ってきているということが大きな原因だなどというふうに思っております。数年前のリーマンショック以来、景気の低迷ということでそういう形になっております。逆に民生費が非常に増えております。生活保護世帯も急増するというような状況でありまして、歳出はどんどん増える、歳入は減っているということでありまして、そういう意味できちんと行財政改革を果たしていかなければならないと強く思っているところであります。皆様にご協力いただいた第3次行革大綱に沿った形、またそれ以上に行革を進めなければならぬと思っております。

                  平成24年度の予算が成立したわけですが、その予算の中で行政診断を行い、外部から専門家の目で第3次行革にさらに上乗せするような形で内部改革に努めていかなければならないなというふうに思っております。今回、第1回定例会、すべての議案が可決したわけですが、国保等々、市民の方々にご負担をいただく部分が多岐にわたる、今まで上げてこなかったつけが一遍に出たというような状況になっております。そういう意味で、市民の方々にご負担をいただく以上、我々もきちんとした行政をしていかなければならないなというふうに考えております。これからも皆様には陰

に陽にいろいろアドバイスをいただきながら市政に反映させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○会長 市長からの近況の報告並びに政策的な課題として様々あるという話を承ったわけでございます。

ところで、本市民会議でございますけれども、当初スタートのところから参加された方は7名ぐらいなんですけれども、3期やっております、ということは6年やっていると。6年の間に1回現場の見学がありました。あれも1回と数えますと、今日で22回やっている形になるようでございまして、回数も非常に多いし、その間に非常に活発な議論もいただきましたし、それから、いろいろ答申ですとか提言というような形で、それなりに生産的なこともやれたかなと、ある意味では回顧しているところでございまして、これも本当に皆様方の積極的なご参加のおかげということで、本当に感謝申し上げているところでございます。

本日は松井委員が欠席のほか、皆さんご参加いただきました。

## 2 前回（平成23年7月5日（火）開催）の会議録の公開について

○会長 最初に議題としては、前回会議と言っても随分前になりまして、7月5日でございますけれども、議事録は既に皆様方のご了承を得ていると思っておりますし、その後会長という立場で目を通して問題ないと判断しましたので、それは既にご了解いただいているものと扱います。

## 3 議題

(1) 市民による行政評価（報告書）について

(2) その他

○会長 それから、本日の主要なテーマとしましては、これまで市民による外部評価と申しますか、行政評価と申しますか、今日まで入れてほとんどフル2年間議論をしてまいりましたけれども、それについての取りまとめをこういう形でしたらいかがかということをご提案するものでございます。

その内容を早速にお話し申し上げたいと思っております。この市民による行政評価というテーマは当初、事務局のほうから一種のご示唆というのか、アドバイスというのか、依頼というのか、そのような形で、とにかくこういう市民評価、外部評価というもの

について小金井市でどう扱うべきかということについて検討いただきたいというお話がございました。その後、市政としても市長選挙が2回行われたというようなことで、この市民評価の件は、市長から諮問が我々にあつて、それに対して私どもが答申するという形をとることはちょっと無理もあるかなど。とはいっても実質的な効果はあるものにしたい、という意味では、せつかくの議論でございますので、それを報告書にまとめて、それを市長にもご覧になっていただく、それから市民にもわかる形、例えば小金井市の、市報にはあまり詳しく載らないんですけども、ホームページにも載るような形にして、いろいろな留意点とか着眼点とか方向性についての、次年度以降もこういう議論があつた場合に、願わくば次回の市民会議の方にも、一種の参考資料として目だけは通していただく、これにこだわっていただく必要はないと思うんですけども、参考資料としてはお届けするというような使い方もしていただくというのはいかがでしょうか、というあたりが「はじめに」というところに書いてあるところがございます。

それから、せつかくですから、ちょっとこれ、8ページものでそんなに長くありませんが、ここで確認のため、要旨だけ申し上げていきたいと思ひます。

小金井市自体も相当前から人件費比率が高過ぎるとか、経常収支比率が悪過ぎるとか、いろいろな問題がございましたけれども、これについては以前に、平成6年に外部に委託していろいろ内部の分析をしてもらいましたところが、職員が200人ぐらい過剰ではないかということで、これについては当時の市議の稲葉さんが先頭に立ってこの問題を解消していくということで、市政のプライオリティを決めていただいて、それ以来改善が続いてきたということはここにもはっきりと書かせていただいております。

その後の小金井市としての行政評価というのは、平成15年、外部コンサルタントに依頼して以来、いろいろ方策も固まって、ほぼ毎年やってきたと。その成果としてこの表の中にありますけれども、各種事業について、縮小あるいは廃止という形へもっていったものがあつたり、いろいろな人員整理なんか必要なものは必要ですからやっているということでございます。その背景としては、国政レベルでも事業仕分けというのがなされてきていますが、これは私どもも認識しているところですけども、いろいろ問題もあり、ひところのような形で脚光を浴びるという形にはなっていないということも我々としては認識しておく必要があるだろうと思ひます。

4ページのほうへ行って、行政評価の見直しということがございますけれども、このように七、八年にわたってやってきた行政評価でありますけれども、これはあくまでも職員なり市役所内部での作業という形で完結しておりますので、それに新しい息吹といいますか、新しい視点を取り込んでいくという意味では、ここに書いてある市民の目、声、風を市政内部に呼び込むような形をとっていったらどうだろうかということです。既に平成22年に策定されました第3次行革大綱の中でも行政評価の充実ということで、この行財政改革市民会議等を活用した方法を考えるべきだと。22、23年は検討期間、24年は試行で、25年ぐらいから実行すべきものは実行して行って、26年から本格実施という流れになっているという中で、私どももこういうタイムスケジュールを頭に置いて検討を重ねてきたところです。一方、多摩26市の中で市民評価がどう扱われているかという事も、これまた事務局から以前に報告をいただいておりますけれども、多摩26市の中では11の団体が市民評価を行っているということになります。これは完全な外部評価ではなくて、内部でいわば要綱に基づいて組織を立ち上げて、行政内部ではあるけれども、市民が参画の機会を得て、評価をしていくと。そういう評価をしたものを何らかの形で行政のほうとしても反映させていくという形ではありますが、これが果たして小金井市の中で取り込めるか否かというところで、いろいろな議論をしてきたわけがございます。

5ページにございますけれども、市民評価のそもそもの役割とは何だろうということがいろいろな形で皆さんからご指摘いただきましたけれども、つまるところは市民目線で小金井市の行政というものを評価し直すということだと思えます。一つのスタンドポイントとして言えば、行政あるいは公共サービスの、我々受益者でございますから、受益者として本当に満足できるようなサービスが質なり量なりにできているかというものの見方はしていく必要がある。それからもう一つは、地方の行政というのは、いわば「公」であり、場合によっては「官」でありということなわけですが、私どものほうは官とか公に比べれば、「私」というか、私(わたくし)の立場にあるわけで、それでおのずと、発想なり行動なりというものは違ってくる。いわゆるお役所臭いとか、お役所仕事なんて言葉が片方にあるとすれば、こっちのほうは民で、極端に言えば、いつ会社がつぶれてもしようがないというか、そういう立場の、ある意味では非常に脆弱な存在だからこそ、やはり市に対して物を言える部分というのはあるのではないかと思います。

それからもう一つは、これまで小金井の中でどう取り入れられているかは別にして、やはり市民と職員というのが、ある部分では利害が相反する立場があると。よく言われるステークホルダーというのがありますが、ステークホルダーとして、それぞれにある立場を持っておられるわけですから、そういうものとして見ますと、いささか利益が相反する関係など問題が出てくると。

一つの例で言えば、市の職員の給与レベルということになると、ついせんだっても新聞にも出ていましたが、国家公務員の給料に比べて、小金井市のラスパイレス指数というのは103.4とか出ていましたけれども、26市の中でもトップだと。一方、職員と市民の比率ということであると、1人の職員が小金井では約150人の市民にサービスしていると。それが、26市全体で言うと170人ぐらい。だから、周囲の市は1人の職員で多めにサービスしている。ちなみに、大阪市を調べてみましたら、大体小金井の倍強なんです。ちょっと別の表現になっていましたけれど、1万人の市民に対して職員が何ぼいるかといったら、小金井は70人ぐらいですね。それが大阪では150か160人ぐらいですね。これではやはり橋下さんが出てきていろいろ言う話になるのも無理ないなというのは今日の朝調べて気がついたところなんですけれども。どういうバランスをとるのがいいのかということも、やはり市民目線として見ざるを得ないということだと思います。

ただ、市民評価の難しさということもこれまたこの委員会の中で再々出たところがございます。要するに簡単に飛びついて本当に我々にはできるのかという話なんですけれども。一つにはやはり、市の基本的な方向についてはもうちょっとさらに明らかにならないと、なかなか評価といっても価値観の問題になってくるので難しいということがある。例えば、雨宮委員も力説しておられましたけれども、やはり小金井市の教育の魅力をさらに増して、教育の小金井だということをアピールして、共稼ぎでかつ担税能力のある人に大いに来てもらうというようなこととか、あまり近代化みたいな感じでいなくても、少々のんびりしているところがあっても、子育てが安心してできるとか、そういう良さもターゲットに出来る。市の基本構想の中で、こっちは不勉強なところがありますが、どう表現されているか、本当にやるとなったらこのように見ていく必要があるのではないかと。

それから、市の正式な改革目標で、費用の何パーセントを削るとか、あるいは何億円ある費用項目のどこかを削減するとか、本日の市長のお話で申し上げれば、共益費というか、市民生活費が増加するなかで、その財源としてその逆算で歳費をこれぐらい削ら

ないとやっていけないとか、そういうものがないと、なかなか簡単には弾みが見つからないと。

それからもう一つは、私どももいろいろこうやって言わせていただいておりますが、行政の実務知識、経験というのはそれぞれ限られておりますので、600も700もある事務事業を均等に見てこうしたらいい、ああしたらいいとなかなか言えないのが実態であるというところもさんざん議論したところでございます。

それから6ページに移りまして、行政評価をやる場合でも、何をもって評価の基準にするかということ。これは行政評価の際、諸案件を横並びにしたり、数字で順序づけをするということは避けがたいと思うんですけれども、それが何かあまりすっきりした基準がないと。そういうツールがはっきりしないのにやれと言われても、さあ、何をやるんだということになりがちだということです。

それから、私どもの市民会議というのは、あくまでも市長の諮問機関でございますから、これはほかの市の場合でも同じですけれども、実行権限とかそういうものはない中で、どうしてもやるについても限界があるのではないかと。

それから、市役所の立場としては、これは書き過ぎかどうかわかりませんが、やはり気づきの場、参考意見をいただく場としての位置づけという、普通ですとそういうふうになってくるわけですから、そういう中でやっていくということの難しさも見ておく必要があるだろうということでございます。

というと、難しい、やりにくいばかり言っているように聞こえますけれども、市民評価の対象項目として、どういうことが例えばで挙げられるかということですが、やはり金額は小さくとも質的なインパクトのあるものとか、大きく改革できそうなものとかいうところに優先して評価項目を絞り込んでいくということが必要であるということではありましようし、また、私どもとしても単に評論家になるのではなくて、提言を実現していくという気構え、積極性というものも必要だろうということです。そういう姿勢でこの市の状況を見て、私どもの今までの行財政改革市民会議の議論の延長というか、蓄積してきたものの活用ということで、市民評価の対象になり得るものとして、ここに全部で8点ほど書いてあります。

一つには、評価シートを改善するということがあるだろう。先ほど、評価基準、評価バランスとかがないといっても、それは民間企業でもいろいろなことはやっているわけなので、それを利用すれば何らかもうちょっと進歩するということではできらるだろうとい

うことです。

それからもう一つは、各委員の市民としての生活体験からして、もう小金井市民を何年も何十年もやっているわけですから、生活実感としてこういうものはこう正すべきだとかいうのは、皆さんも2つ3つは必ず持っておられるので、それをもう一遍上げて、そこから行政評価をしていくということもあり得るだろうと。

それからもう一つは、市は評価をする場合に3段階でやっていますが、部長職が集まってやる第3次評価の前に、市民会議として独自に検討して、それをまた第3次評価の行政評価会議にフィードバックするという形もあり得るのではないかと。

4番目には、市のいろいろな問題意識というものも出していただいて、それでやっていくと。

あるいは5番目で、もう既に十幾つの市がいろいろな外部評価をやっておりますし、そういう事例をそのまま生かして、例えば小平市のように事業開始から40年以上経過した事業であれば、自動的に外部評価にかけるといようなことを小金井でもやるとか、そういうやり方もあるのではないかと。

それからもう一つは、平成22年の決算監査の中で受益者負担の適正化ということについて小金井市としてはもう少し検討しなさいというご指摘があったようでございますので、せっかくですからこの市民会議でやると。ちなみに、私どもの任期の中ではあまり議論していませんが、その以前には受益者負担の問題を市民会議として検討したという、一種の伝統というのか、実績というのはあるようでございますから、それを受け継ぐ意味というのはあるかもしれません。

それから、7番目に書いてございますけれども、小金井市市民協働のあり方等検討委員会の答申が今月中に出るかと思っておりますけれども、官と民というか、公と民というか、そういう仕事のあり方というのは当然議論されるはずなので、それとの絡みで行政本来の仕事というのがあぶり出されるとすれば、そこにターゲットを当てるといやり方もあるだろうということが書いてあります。

7ページにまいりますけれども、過大な人件費対策と書いてあるのは、先ほども申し上げましたように、職員1人当たりの市民人口は少なく、給与のラスパイレス指数は高い状態にあるということでありまして、これはやはり市の交付金が減額されたりとか、いろいろダブルパンチになってしまう可能性もあるので、この辺の改善というところにポイントを置いて見ていく必要もあるのではないかと。一つの着眼としては、再々こちら

の市民会議としては申し上げてきたところですが、定員管理の中で職員の再任用制度というものについては、やはりあり方運用論を見直していく必要がある。幾ら要員を削るといっても、生首を飛ばしながらやるというわけにはいかないわけですから。そうすると、やはり定年退職のときをいいタイミングとして使っていくという必要性は前からあるあると言ってはきたんですけれど、その間に時間が流れてしまいました。特に、団塊の世代の方の大量退職というのが、23年度は31名でしたが、24年度からは27人、21人、11人と、もうあと数年でそういう人は皆退職してしまう。となりますと、幾ら要員を減らします、何人減らしますといっても、首を切るわけではないですから、要するにお題目だけになってしまう。

それからもう一つ怖いのは、私どもも過去に議論しましたが、今までは民営化をやれやれと言ってきたんですけれど、減員の要素はもうどこにもないんですから、この上民営化なんかすると、職員は残っていて、仕事は別途委託費を払って、それで仕事だけ外へ出すということになると、ダブルカウントでコストが増えるということになりますから、今までは民営化してサービス水準を引き上げ、かつ人も減らせればよいというところがあったんですけれど、これからは減らせないという局面に来ているだけに、このところを大いに何とかしなきゃいけない。

この辺については、こういう労使間交渉にかかわる問題についても、やはり透明性といえますか、市民としての判断というものもどこかでつけ加わるとか反映するということも、やはり何らかやっていく必要があるのではなかろうかというということです。

それで、これは事務局のほうから、もう既に1週間ぐらい前でしょうか、各委員さんのところにこの報告書案をお届けしてあって、それで特段のご意見をいただければ、これは本日の原案に反映しますということになっていましたが、これまで1名様からありまして、その辺は字句として織り込ませていただきました。あと、この報告書についてのご意見、あるいは、これとはまた別だけれど、せっかくですから、この最後の市民会議で一つ発言しておきたいというようなあたりを、松井さんを除きまして全員ご参加でございますので、もしできましたら、どんなお話でも結構です。この会議を6年やった、あるいは4年やったという感想でも結構です、伺いたいと思います。それから、この文面自体で、ここはこう直したほうがいいのかというのがあるかもしれません。それから、先ほど申し上げましたけれども、これとは全く関係ないんだけれど、小金井市の行財政改革市民会議委員として、せっかく市長もこうやって

ご参加していただいておりますので、日頃お気づきの点などご発言をいただければと思っております。

せっかくですから、吉沢さんから。急にご指名するのは大変恐縮なんですけれども、もしお許しいただければ。

○吉沢委員

私も行政評価の報告書を読ませていただいて、本当に大変な作業だったと思いました。私たちがここで話し合われたことを、会長さん、きちんとまとめていただいて、会議でいろいろお話ししたことがまとめられている。これが出たことによって少しは市民の目線みたいなのところの大事さというところをわかっていただけたらいいなと思います。

今までは福祉のほうで、自分でやれる活動をしてまいりましたが、このような広い視点で市政を考えるという席をいただきましたものですから、都政新報をはじめいろいろな資料に目を通したりしてましたが、やはりどこの市でも今本当に行財政改革にしっかりと取り組まれていて、その市に合った、本当に喫緊の課題として取り上げられていて、市長さんたちも本気で取り組んでいらっしゃるんだなと感じておりました。小金井市も非常に一生懸命取り組んでおり、小金井市は大変という時期から見ると、よくはなっていると思います。私がかたま福祉の現場で民間で働く職員たちに頑張っているよとか言っている立場なものですから余計感じるんですが、言わせていただければ、やはり職員の給料、あるいはかたま私のところへ送られてきたリーフレットにあったんですが、地域手当という額がとても高いそうですね。国基準が10%なのに、いろいろな理由があるんでしょうけれども、独自に2%上乘せし、12%の職員地域手当の額となっているという。近隣市が1万2,300円の職員住居手当なのに、その支給上限額を1万7,300円としたというようなことが、抜粋で全部は読みませんが、あったものですから、行財政改革を一生懸命やってきて、最後にまたこんな言い方もしたくないですけど、やはり平均値、常識的な線でいってほしい。小金井市には総合福祉センターといったものが必要だと思います。私が福祉の部分しか見えないから、ここの部分だけ強調するんですが、ほかにもいろいろあるかもしれません。小金井市に住んでみて、福祉相談、特に障害者相談は一つのところで解決するような場所があったらいいなと思っているものですから、もっとお金の使い道をきちんと考えたていただきたい。職員さんたちの、お給料のことはさておいて、地域手当とか住宅手当というものはやはりきちんと普通に基準並みにしていただきたいなと思います。

○会長                    どうもありがとうございました。

それでは、随時手を挙げていただいてもいいんですけど。

○市長                    今、吉沢さんが言われた、地域手当は小金井が多分近隣市では一番低いのではないかなと思います。国基準というのは、武蔵野が15、それで15%払っています。三鷹が10、これで15払っています。小金井が10で12払っています。国分寺は15で15%、国立も15%で15%、立川が12%で13%払って、ここで12にするかなと思います。近隣市の中では小金井が一番低いんです。ただ、国基準というのがよくわからないんですね。私たちは職務給を導入するとき、大久保市長のときなんですけれど、職務給を導入すれば東京都並みにするというので12%を約束していたんですね。上げる途中で国基準というのが出てしまったものですから、ちょっと面倒になりましたが、私は約束なので10年くらいかけて12にしたんですね。それで国基準があるから下げなければならないということで労働組合と話し合って、平成24年は11にして、来年度は10にするんですね。国基準に合わせないと総合交付金を減らすとかというプレッシャーもかかるから、下げる交渉をしました。

住居手当に関しては今言われているように突出していました。東京都の26市の中で上から2番目だろうと思ってまして、これは1万3,500円が近隣平均ということなので、これを4年間かけて他市並みに下げますということになっており、労働組合とも話し合いがついております。

それともう一つ、ラスパイレスがここで26市でトップになりました。給与表を、独自表でやっていたので、東京都の給与表に変えるということになると、同額もしくは直近上位に給与を張りつけることとなります。ですから、少しずつみんな上がると1位になってしまうというのはもうわかっていたんですけど、これを決断しなければ、将来にずっと市民に不利益な給与表になってしまうということで、労働組合も泣く泣くのんだんですね。今度発表になるものの1位は、去年は昭島だったんです。昭島は都表に準拠したときにトップになるんですね。翌年の今年はまだ8位まで下がってくる。一過性のものなんですけれど、これをやらないと、いつも小金井の給与は他の自治体と違う給与表になってしまうということで、ここは厳しい市民のご批判はいただくだらうと思っていましたけれど、給与表を変えました。それで、1位になったというのは、小金井市から新聞社にプレス発表しました。隠すつもりは全くないので、一部の新聞は書いたと思いますけれど、やはり給与改革をしたためにこういう形になり

ましたけれど、これは一過性のものであるということも含めてコメントを出させていただいています。だからいいということにはならないので、吉沢さんが今おっしゃっていらした事などは十分頭に入れながらやりますけれど、議会の中では私はそういう説明をしてきました。

また、平成6年から9年は小金井の件数というものは100億を超えていたんですが、平成24年度は69億に減りました。そしてこの減ったというのは何が減ったかという、職員の給与なんです。平成6年は76億ありました。平成24年度は42億になりましたので、平成6年から24年までの間で34億、職員の給与は減っています。これは職員の数を減らしてきたというのがやはり大きいのかなと。1,024人ぐらいいた職員、これを200人減らすということで、今年の平成24年4月1日は701人まで減らしたんですね。701というのは、育休をとっている人が13人いて、この育休をとっている13人の方々に任期つきで採用した職員を13人雇うんです。そうするとこれを都は計算してしまうんですね。だから、今、小金井市の正規職員は688といってもいい状況なんです。ですからすごい改善をされてきているんですけど、我々の説明不足なのかよくわかりませんが、そういうこともあるということも知っていただきたいと思います。ただ、私たちは改善していかなければならないところは改善していかなければならないと思っております。

○会長                    どうもありがとうございます。

それでは、林さんのほうから順次。

○林委員                私もこれ送っていただいて、熟読しまして、五、六カ所指摘したのは直っていました。大変よくまとまっていると思います。特に外部評価の問題をどう考えるかというのは、外部の人は素人なものですからね、そういう素人の目が大事なんです。それを忌避していると結局改革につながってこないわけです。ちょうど昭和60年ごろ、鈴木俊一さんが都知事のころ、活力ある都政を作る懇談会なんていうものを作りまして、各界の有力者を入れて、活力懇と略していたんです。その活力懇を、組合のほうはカッパ懇だと言って、要するに、活力ある都政を作るというのは行政改革そのものなわけですから、そういう意味で毎日のように知事室の前で組合の連中が座り込んで、通行がなかなか難しいぐらい廊下がふさがっていた、そんな時代もありましたですね。そのおかげで随分人件費なんかを削減しました。ただちょっと注意すべき点は、人件費は減らしても、それを委託費にして、その人員は確かに減った形になるけれども、

委託費にして別なところでその仕事を受けているという形での人件費の削減というのもあるんですね。これが、恥をさらすようですけれども、そういうやり方も名目を上げるためにやった経緯もあります。私の経験からいっても、なかなかこれは難しいんですけれども、よくこれはまとまっているのではないかなと思います。

どうもありがとう。

○会長 続きまして、横田さん、いかがでしょう。

○横田委員 今回この行財政改革市民会議の一員とさせていただいて、本当に一市民として今まで、わからなかったこととか、本当に気にすることなくきたところに視点を置かせていただいて、有意義にこの会議に参加させていただきました。今回のまとめていただいた中での市民評価の難しさというのを本当に改めて感じました。国でやってきた事業仕分け等を見ていると、そのときは潔く事業仕分けをやって、だけど、結果、月日がたったら、やはりしわ寄せがきている部分とかあるのを見ると、どういうふうにして市民にプラスになって、なおかつこの財政も正しく維持できるかというところを考えていくというのは本当に難しいなというふうに思いました。また、小金井市としてどこに一番この力を置くかということで、私もこの中にある当市の教育の魅力をさらに増しというところの、やはり教育が素晴らしい小金井市でありますので、最後まで残っていた保育園だとか学童保育だとか、そういった部分に関してもさらに皆さんと意見を共有しながら、よりよい小金井市の子どものための未来につながるような、そういったまちづくりができていけたらいいなというふうに、この会議に参加して強くまた感じたところであります。

ありがとうございました。

○会長 それでは池田さん、いかがでしょう。

○池田委員 連合の代表として、組合側のほうの代表として来ていますけれども、1年間の任期でたった2回しか出ていないんですけれども、その中で、私は民間にいますので、企業が大きくなるのと市の財政の部分というのは、市民の方々、私たちは組合員の皆さんにお知らせする、しっかりやはりそこはやっていかなければいけないと思っているところは一緒だなと思って、先ほどから聞いて思っていました。そしてやはり、小金井市というのが法人税ではなくて個人の方々が多いところからすると、やはり働きやすい、住みやすい、女性も働きやすい環境もあって、税金を落としていただけるような、市全体で働く方々をフォローしていけるような制度とか、施設なりとい

うのも今後はしっかりやっていっていただければなと思いました。

こちらの評価に関しては、すごくまとまってよくわかりやすいと思います。

私はこれまで2年間でしたけれども、ありがとうございました。

○会長

お次に、中野さん。

○中野委員

初回から参加させていただいておりましたが、ありがとうございました。

小金井に住み始めて約30年ですが、その間子育てをしながら小金井市の会議などにも関わらせていただいております。

今回の市民会議では違った視点から小金井市を見て考えることができ、私の身近にいる人たちにも小金井市のことが少しでもわかってもらえるようにと接してきました。

市民会議に参加して、いろいろな面での難しさも感じられ一市民として非常にいい勉強をさせていただきました。

子供達が成長していくに当たって、明るい未来であって欲しいし、小金井市が子供達にとって日本で一番の市になって欲しいと思っています。

次回から新しい方々に変わり、またより良い市を作れるように助言していただけるように願っています。

○会長

どうもありがとうございます。

では、戸張さん。

○戸張委員

私も初めから1期、2期、3期と務めさせていただきました。私は前原町から東町に引っ越ししたんですが、向こう三軒両隣が、商店会の中に引っ越したのに、すごく皆さん和気あいあいといい関係なんですね。ですから、安心して過ごせているのでとても感謝しているんですが、私が気になるのは、先ほども市長さんがおっしゃったように、税金が少なくて困っていると。昔から稼ぐに追いつく貧乏なしという言葉ありますよね。ですから、私の周りの商店会も、あそこのご主人が病気になったとか、奥さんが亡くなったからお店がやっていけなくなってお店を畳んでしまったとか、そういう話がたくさんあるものですから。私は前に消費者団体の役員をやったりしていた関係で、小金井に15ですか18ですか、商店会がありますね。その商店会のお祭りにも積極的に参加して、どうしたら商店会がにぎやかになって税金が納められるようなお店になるのかなといつも考えながら商店会のお手伝いしているんです。まず税金を上げるために小金井の町をどう活気づけるか、いろいろなまちおこしのニュースがテレビや何かでもありますし、東北のあの震災の被害に遭ったところでも結構いろいろ

な復興のアイデアが出ていますので、小金井独自の元気になる小金井のような方策が出ないものかなと、一人ではどうしようもないけれど、いつも考えながらいますので、こういうところに参加させていただいて、小金井全体のことが見られるようになったような気がするんですけど、本当に市長さんはじめご苦労されていることよくわかります。

6年間、ありがとうございました。

○会長

河村さん。

○河村委員

私はどちらかというと、商工、商工会の関係ですけど、戸張さんが今言われたことは身にしみてわかるわけです。先ほども市長さんが言われたように、税収が減って出ていくお金のほうが多いわけですね。福祉、福祉と言われますけれども、本当にやらなければいけない福祉と、そうではない福祉とあるのではないかという気がするんですね。それとやはり、小金井にずっと住んでおられて、それでいろいろな部分できて福祉のお世話にならなければいけない部分と、突然小金井に来られた人たちのことも面倒見なければいけないということも非常にあるのではないかと思うんです。こういうことは、やはり我々も声を大にしなければいけないし、役所としてもそういう部分をきちんと見定めなければいけないのではないかと思うんです。それで、商工会の立場からすると、どうやって小金井の町を活性化していくか、そしてしっかり税金が入る町にするかということなんですけれども、僕はよく言うんですけども、やはり市の経済課あたりがそういうところを小金井の中に持って来られるような対策をとらないといけないのではないかなというふうに思っています。

今回、市民評価報告書も出していただいて、非常にいいものができたんですけども、これで終わりではなくて、これからやはり小金井市がどうあるべきかということが、我々の任期が終わっても問われてくるのではないかと思います。自分で仕事をやっていると、金が入らなかつたら、やはりどうやって対処するのかという感覚で目の色変えてやるわけですね。社長職であれば、自分の給料を減らしても、自分の会社を守ろうとしますけれども、町というものが、行政というところはそういうことがなしに、お金が入ろうが入るまいが自分たちの特権を生かしてものをやるというのは、どうも私にはわかりません。そういうのも含めて、市長さん、大変だろうと思いますけれども、市の職員の方ともよく話をして、小金井がよくなればまた皆さんお金をとれるわけですから、とりあえず困ったときはみんなで心して、とにかくこれから進んで

いくことを考えていただきたいと思います。

本当に長い間お世話になりました。どうもありがとうございました。

○会長 最後に、まとめを含めて……。

○雨宮委員 私は4年前ですよ。委員になったのは。僕は美術館の運営委員の一委員としてやりたいと言ったら、知らない間にこういうところに……。まあ、知らないほうではないんだけど、でも非常に市のこともよくわかったし、それからこの過程の中で、例えば労働組合なんかの問題についても、割合に市長も含めてですが、オープンになる機会になって、僕は全体としてはいい方向にいつていると思っています。その上で、いや、まとめではないけれども、やはり送られてきた報告書を熟読して、僕はこれで結構だと思うんですが、ぜひ議事録も参考資料として添付されるといいと思うんですね。かなり議事録がよくまとまっていて、かつその中にたくさんの内容が入っていて、読みたくない人は読まなくてもいいんだけど、何か腰を入れて読みたいとか考える人にとってみれば、これもそうなんだけれども、議事録を読むといかにいろいろなアイデアとかイメージがわくのではないかということで、もし可能だったら議事録も添付されるとよろしいのではないかと思います。

それから、その中身についてはずっと議論されてきたので結構なんです。もう一つは、例えば5ページの公と私ということがありますが、これももう当たり前のことですが、公、共、私と言われる時代になりましたね。5ページの、市民評価の役割の第二のところ。これからの市の行く末というか、方向づけとも関係するんですが、共の部分があるすごく多くならないと社会的にも財政的にももたなくなると思うんですね。NPOとかNGOとか、社団とか法人とか。そこを増やししながらどういうふうに、例えば教育を中心とした町とか、福祉を中心とした町とか、そういう町をどう作っていくかということを考えるという論点はちょっと入れておいたほうがいいかもしれませんね。直す必要もありませんけれども、それは市民協働のあり方等検討委員会で多分出てくると思いますが、ただ、市民評価をする場合の公、共、私との関係でどうなるかという議論を一つの基準に入れておいたほうが確かにやりやすいと思うんですね。

それからもう一つ、方向づけの問題についてですけども、私はベッドタウンというのは基本的にはもう危ないと思っているんです。つまりベッドタウンというのは、昔は高度成長の時代で住むところと働くところを分けて、最も効率的に物事を進展す

るにはよかったわけです。ところが、高齢化と少子化とグローバル化でね、もう高度成長もそんなにできなくなるでしょう。そうすると、高齢化の中で、これまで住むところに住んでいて、どこか遠くから通って、そこから税金を払って、地域で回していたんですが、それが高齢化で、一つは金を持ってくる人間が今度は福祉の対象になるという時代になるわけです。それからもう一つは、少子化で新しい人が来ないわけだから、そうすると、さっき言った税収が減るといのは不景気だけの問題では済まない問題として、構造的に存在するわけですね。そうすると、一つはちょっとそれは申し訳ないけれども、若い人をいわばリクルートするようなシステムをどう作るかということによって、高齢化と少子化を相対化するような政策を、小金井市あたりはできるわけですね。できるわけだから、それを意識的にやっていくのと、もう一つは、さっき河村委員がおっしゃったように、ベッドタウンだけではなくて、職と住を結合させるような中身をここでどう作るかということです。府中なんか立派なのは、工場を追い出さないではないですか。だからあそこは住宅都市に見えるけれど、あれは工業都市ですよ。それからもう一つはギャンブル都市みたいなのがあって、府中はなかなか上手だと思う。だから、できるならばその産業を追い出さないというか、追い出さないでさらに呼び戻すというか、呼び戻す場合の産業もインダストリー、工業だけではなくて、サービス業でもいいし、どういうものでもいいんだけど、そういう点ではジブリなんかは僕は先端産業だと思うんだけど、そういうものを呼び込んでくるような形も含めて考えないともたないと思う。そのためにも、地元がいい労働力を作るためにも教育をちゃんとやっていくと、非常に呼べるんですよ。

それからもう一つは、最近国際的な、だから僕は国内の企業を呼ぶだけではなくて、国際的な企業を呼んだほうがいいと思うんだけど。一番いいのは、そこに、ちょっと言い方は悪いんだけど、エリートたちが来て、緑も濃いいし、人間もいいし、コミュニティも何かきらきらしているような、そういういいところでないといけないんですよ。そのような人たちが来ると、企業も来るんです。だからそこは何かちょっと発想を変えて、かなりよくしないと、住み心地よく、しかも文化水準を高くして、特色を出さないと来ないので、そこら辺も含めてどう考えるかということを考えないと、職員の給料を少しむしれば何とかなるなんていう時代ではないんですよ。それはもう少な過ぎる。そんなことでは済まないわけ。

○戸張委員 稼がなきゃ。

○雨宮委員

そう。稼げる。だから最初のころ僕がずっと言ったように、やはり稼がないとだめで、ちょっと考えていく必要がありますよね。

それからもう一つ、今度、評価の問題ですけれども、これも能率性だけではなくて有効性というのがよくありますね。有効性というのは、つまりこれは、受益者とそれからやる人間の満足度の問題であって、満足するかしないかという問題、満足は必ずしも能率ではないんですね。満足させるためには幾ら金使ってもいいという話にもなるわけです。ここもまた難しいので、今後の市の方向性として戦略的に大事な問題については、当面コストを考えずに重点投資をするなんていうことは十分にあり得るし、そろそろそのことも考えないといけないというのは、前からずっと言っているお話なんです。

それから、審議会というのは、いいお話をし合うだけではなくて、各利害関係者、各ステークホルダーの代表者が実は集まって熟議をして、そして実はそこで実質的な討論と、ある意味では大まかな合意を得るところでもあるんですよ。実は審議会というのは、多分ご存じだと思う、大体だからそういう利害関係者のボスというか、代表者を、あるいは関係者を呼んで、それでそこでじっくりと話して、ここら辺で誰もが納得できる形で、不満だけれども手を打つみたいなことを決めざるを得ないところが、実は審議会なんです。審議会ってそういう仕事なんです。きれいごとを言うところではないんですね。そういう点でちょっとね、できるなら組合の関係者がもう少し出てこられて、組合としての意見をきちんと行って、それでみんなに言って、そしてみんなに、それはおかしいとか、それはそういうことだったのかとかいうことで、大まかな議論ができると、物すごくいいんです。

それで、ちょっと、次回からの問題については、もう少しこの労働組合にも発言する場を与えておいたほうが僕はいいと思います。そうすると非常に、さっき言ったように、さっきの吉沢委員の、要するに情報元についての本家本元の組合の方が言えば違う言い方をするわけでしょう。それはさっき言った市長と合意したような中身の本当の内容はこうだということ、それは一番我々側の話だとやたら高いとかという話になるけれども、そうではない、総体的にはこうなんだということ、それでも高いんだという議論をしても全然いいと思うんですね。それでもいい、それでも高いんだと。だからそれは直すべきだという議論はいいんだけど、その市長が言ったような内容を入れないで、やはり下げたほうがいいとなると非常に非生産的なこじれに

なる可能性があるわけだから、それは今後の問題としては気をつけたほうがいいのではないかと思うのですが。そんなところです。

それからもう一つ、最後ですが、実は小金井にずっと生活していて、最近僕は6年か7年しか住んでいないんだけど、だんだんに村の雑貨屋さんみたいな形が多くなっていますね。小さいところで、昔、僕は山奥で住んだんだけど、雑貨屋さんってあって、あれと同じようなお店屋さんがいっぱい出始めていて、ああいうことをどう考えるかってちょっとおもしろいですね。つまり、高齢化して、高齢者がスーパーとかもう行けないというか、行けなくなってということになって、こういうことはこの小金井市の将来にとってどういう意味があるかということについても、ちょっと大事なような気がするんですね。つまり、僕から言わせるとそういうことは高齢者にとっても生活がしやすい場であるというふうな位置づけをした場合に、またおもしろい問題が出てくるわけで、ちょっとそれは今日ほとんど関係ありませんけれども、いっぱいそういうのが出始めていて、商工会もそういう、そこは一体何であるかということを含めて考えられるとすごくおもしろいのではないかな。そういうところが意外に教育の子どもたちを見るときに大事な拠点になりますね。村でもやはりそういう雑貨屋さんが、何だかんだ言っても子どもたちの集まる場所みたいになっているじゃないですか。

ちょっと済みません、長くなりました。

○会長 今の話のように、議事録の表題を参考資料としてつけて、この報告書を読むときに、関心のある人はそこまできちんととどり着くというような構成にしたいと思います。

ここまでのいろいろ皆さん方のご感想なりご意見を伺ったので、私も同様に一言だけ申し上げますと、私もこういう座長という役目を務めさせていただきまして、その職責を果たせたかどうかわかりませんが、職務履行上多少なりとも勉強しなければいけないので、いい機会を与えていただきました。今までは、小金井というと家に帰って寝るところだったわけですが、最近は時間もできたものですから、ということで、こういう勉強の機会もいただきまして、まことにありがたく思っております。今後はということになると、せつかく勉強したことですから、私自身も今までよりもよりよき市民になって、小金井の実情ということもよく理解して、かつ小金井に愛情を持って、なじみのよい、住みやすい町になるよう貢献していけたらと思います。ある種「私」一人ではできない、「共」の分野でその一端でも貢献していけたらなと思っています。

#### 4 閉 会

○会長            それでは、長い方とは6年間一緒にやってきて、小金井の中でこういう形でおつき合いさせていただくという、まれな関係でございました。楽しくも有意義に、共有した機会でありましたが、これが今後ともお役に立つ所があったらいいなという期待を込めて、これにて終了とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

— 了 —